

行政視察報告

視察日時	令和2年11月10日（火） 13時30分～15時30分
視察場所	栃木県足利市元気高齢課
視察項目	エンディングノート「わたしの足あと」について
視 察 者	民生常任委員会委員7名 同行当局職員1名 事務局職員1名
視察概要	<p>はじめに、足利市内7か所の地域包括支援センターの事業を円滑に効果的に行うための関係会議の仕組みを紹介していただきました。連絡会議（管理者・実務者リーダー）、リーダー会議（実務者リーダー）実務者連絡会議（実務者全体）、専門職会議などがあり、文字通り地域を包括的に把握されておりました。</p> <p>専門職会議の中の社会福祉士の会議からの発案で、平成28年度にエンディングノート「わたしの足あと」事業をスタートしたとのことでした。これは「自分らしく最期まで生きるための思い」「最期をどのように迎えたいか」などを書きとめ、家族や友人にそれを伝えるためのものであり、特に、介護や医療のこと、遺言や葬儀などのことなどは家族にとって本人の意思を大切にしたいと考えるものであることから、エンディングノートは大きな役割を担うものとなります。</p> <p>足利市では、平成28年から2年ごとにエンディングノートのデザインの見直しを行っており、現在は第3版となっており、印刷し提供した部数は累計6,000部で、市のホームページにも掲載しているとのことでした。また、エンディングノートの活用の啓発として、市広報誌への掲載や出前講座、介護予防教室の際などで行っているとのことでした。</p>
本市に生かせる視点	<p>本市でもこれからエンディングノートに取り組んでいきますが、足利市の説明にもあった「お金のこと、遺言や葬儀のことを書きづらい」という考えをお持ちの方は本市においても多いかと思われます。</p> <p>エンディングノートは記入しなければ何の役にも立たちません。しかし、「高齢者が書くもの」というイメージを払拭し、50代・60代の人たちも楽しみながら書くことによって、人生設計が鮮明となり豊かな老後をおくるきっかけにすることができます。</p> <p>エンディングノートが個人、家族、地域にとっての「幸せづくり」や「生き方を考えることの重要性を地域全体で共有する」ことに役立つアイテムであるを知ってもらうためにも、書き方を学ぶ場面や、これからの生き方を考える場面を増やしていくことが重要です。</p>